



公民館報

海陽

7月号
No.89

文化村HP
QRコード



QRコードに
アクセスすると
海南文化村HPが
閲覧できます。

海陽町教育委員会 2021年7月1日発行



海陽幼稚園園児の藍染体験のようす



穴喰フラワーパークプロジェクト ひまわり種まき



世界初の乗り物、DMV走行に向けて「四国の右下観光局」「海陽町観光協会」「NPO法人あったかいよう」が中心となり、地域の皆さんと一緒にDMVだけでなく、海陽町の魅力づくりの一つとして穴喰駅の田園にひまわりを咲かせようと観光局の発案、あったかいよう企画で種まき第1回目を5月4日に行いました。

当日は晴天の中、ご近所の赤ちゃん連れのご家族や、保育園児、小学生達が参加。1日かけて田んぼ2枚分を10cm間

隔で丁寧に一粒ずつ種をまきました。第2回目の種まきには海部高校生や住民が参加。自分で種をまくことで、畑に愛着をもってもらいDMVにも理解と感心を示してもらおう事につながれば良いと思っています。

あったかいよう会員の畑部隊は、梅雨と悪戦苦闘しながらも知恵を出し合い、DMV走行時に咲く花を見に穴喰駅に訪れる皆さんに喜んでいただこうと頑張っています。このプロジェクトは「海陽町」導入のシェアサイクルも併用し、町の魅力が増えることで旅行者の町での滞在時間が増え、食事や宿泊につながり、さらに町の経済効果を高めることに結びつく期待が持てます。

事務局としてプロジェクトの要となっている海陽町観光協会はお客様に町の魅力を沢山見つけて欲しいという想いから、地域の皆様とフラワーパークプロジェクトを継続していくための「クラウドファンディング」を計画中です。その返礼品として、地域の魅力ある特産品やDMVの希少なグッズを考案し、外部にも発信していきます。

地域住民の皆様も是非ともフラワーパークプロジェクトに賛同し「世界初が走る町」を盛り上げて、新しい出会いを運んでくれるDMV走行にむけて共に力を合わせていきましょう！

NPO法人あったかいよう 理事長 笠原まり



WAKAISHI CAFÉ 活動報告

「浮き玉網掛け作り」

5月16日(日)、阿波海南文化村の工芸館にて、NPO法人あったかいようのご指導のもと、浮き玉の網掛け作りを行いました。

貝殻レジンやフォトフレーム、多肉ポット作り、ミサンガなども作ることが出来ましたが、今回は参加者全員が未経験であった網掛け作りをみんなで挑戦しました。

まずは太い紐で編み方を練習してから、実際に麻紐を使いながら網んでいきました。網目の大きさを調整しながら、オリジナルの浮き玉の網掛けが完成しました。

さらに上級編で、ビー玉の浮き玉ストラップを作った参加者もありました。網掛けを被せ、アレンジすれば空き瓶もお洒落なインテリアになるそうです♪

貴重な体験が出来ました。

WAKAISHICAFF 蛭子 理恵



【参加者の感想】

- ・ 網掛けは力加減や編み目の間隔を合わせるのが難しかったですが、初めてでも面白かったです！
- ・ やってみると楽しくて夢中で編んでいました！



LINE



Facebook



Instagram

ご予約・お問合せ先：わかしプロジェクト事務局
海陽町役場まち・みらい課
TEL: 0884-73-4156
— つながる海陽∞わかしプロジェクト —



人権を大切に作る町づくり

― 賀川豊彦の生き方に学ぶ② ―

社会教育指導員 大石 修 一

(前回の紹介)

賀川豊彦は神戸で生まれましたが、4歳の時に父が、その翌年に母が亡くなり、姉とともに父の実家の板野郡堀江村（現鳴門市）で暮らすことになりました。自然豊かな中で育ち、徳島中学校時代には、英語教師に導かれキリスト教の洗礼を受けました。一方、少年期にはたびたび赤痢にかかり生涯様々な病魔に苦しみました。しかし、飽くなき学問への探究心と困っている人を見ると行動を起こさずにはいられない人格が次第次第に培われて行きました。明治学院高等部そして神戸神学校で学んだあと、やむにやまれぬ気持ちから貧苦や病苦に悩むスラムの人々の救済に取り組みます。そ

して、当時の心向きの象徴としての詩「涙の2等分」を紹介しました。

~~~~~

豊彦は12年間スラムで暮らしますが、飢えや病に苦しむ身寄りのない大人や子どもと一緒に暮らしたり、夫婦げんかの仲裁に入ったり、暴力に耐えて祈ったり、わずかの衣類やお金を惜しみなく分け与えたりしました。

同時にキリスト教の伝道も精力的に行い続けました。スラムの人たちに安くて栄養のある食事を提供したいと考え、一膳飯屋「天国屋」を開業しますが、行き詰まり3ヶ月で廃業に追い込まれてしまいました。

こうした中、豊彦は芝ハルを伴侶として迎え、二人三脚で社

会運動とキリスト伝道の一生を突き進むことになります。ハルは伯父の経営する印刷所で働いていました。伯父はクリスチャンで、毎週月曜日の朝教会から牧師を招き20分間の礼拝を行っていました。ある朝、豊彦が代理で礼拝を行う機会がありました。その熱い気持ちと神への全信頼の信仰を語る豊彦にハルは魅せられました。そして10ヶ月後二人は結婚しました。式を終えスラムに直行したハルの初仕事は、寝たきりの同居人おみつは全身不随の知的障害者でした。

1914年豊彦はもっと知識や経験を豊かにするため協力者と協議の結果、アメリカ留学を決心しました。アメリカでは、勉学のほかに、労働運動や小作争議にも関わり社会運動へと目覚めていきます。豊彦がアメリカに在る間、ハルは横浜の共立女子神学校で国内留学をするこ

スラムに帰った豊彦は、依然貧しさや暴力そして病気に苦しむ人々を見て、自分のやっっている救済事業と伝道が果たして意味のあることかと悩みます。そして、取り組んだのが無料診療所の開設でした。協力してくれた馬島医師の豪放で人情味溢れる人柄は人々の信頼を集めました。次に、歯ブラシ製造工場を設立しました。スラムに働き口を提供し、その利益を工員に還元し、余剰金を社会事業に充てようとした。



賀川豊彦胸像（記念館）

しかし、回転資金不足、工員の怠慢、技術の未熟さ等の原因により、思惑通りには進まず赤字が増えていくばかりで、1年足らずで破産となりました。

この頃から豊彦は積極的に社会運動に取り組んでいきました。主なものは①労働運動と普選運動②農民運動③協同組合運動④震災ボランティア⑤不良住宅改良です。次に紹介します。

### ①労働運動と普選選挙運動

救貧活動の限界を強く感じていた豊彦は、貧困問題と労働問題を結びつけるようになっていきました。友愛会の講師を経ながら1919年関西労働同盟会の設立に関わり、それを全国組織の大日本労働総同盟友愛会へ発展させました。労働運動は、当時巻き起こっていた普選選挙運動に繋がっていきます。1920年1000人の労働者が大阪堺筋へと行進しました。その先頭は、尾崎行雄、今井嘉幸と賀川豊彦の三人でした。しかし、

この段階では帝国議会に提出された普選選挙法案は2回にわたリ否決されてしまいました。そして、内部対立の結果労働組合は普選運動に参加しない方向に転換してしまいました。一方、この頃豊彦は、戦前最大の労働争議と言われた川崎造船所の指導者となっていました。1921年7月労働総同盟友愛会神戸支部のデモは35000人が参加した我が国最初の大衆デモでした。大きな盛り上がりを見せたこの争議も、最終的には、豊彦らの懸命の制止にもかかわらず乱闘騒ぎとなり、多数の検挙者を出しての敗北宣言の発表ということになりました。



### ②農民運動

1922年日本農民組合を結成し、小作料の引き下げに取り組みました。組合は次第に強化され、2年後には350支部25000人にと拡大していき、各地で農民の先頭に立って地主との交渉に当たりました。しかし、ここでも無抵抗非暴力を貫く豊彦の方針は行き詰まりを見せることになりました。

普選運動や労働争議や農民運動での敗北は、豊彦の宗教的な「非暴力の無抵抗主義」の限界であると痛烈に批判されました。彼は政治運動よりも精神運動に軸足を置いており、そのことによる限界は明らかでした。しかし、彼の前には手を差し出さなければならぬ惨めな民衆の貧苦と病苦の現状があり、やむにやまれぬ心情から様々なことに取り組んだのであって、いわば「社会運動の種蒔く人」としての役割を果たしたと言えるでしょう。

### ③協同組合運動

生産者と消費者が連帯しお互いの利益を図るもので、1919年大阪に設立された有限責任購売組合共益社が第1歩でした。会員は瞬く間に1300人を超えましたが、素人経営が響いて赤字経営となっていました。翌年神戸に同様の組合を創設しました。こちらは順調な発展を遂げていき、豊彦は協同組合を「静かなる革命運動」と位置づけました。

《以下次号》

### 【参考文献】

賀川豊彦 林 啓介 著  
人間賀川豊彦

黒田四郎 著  
賀川豊彦の妻ハル

福田満智 著



# 梅をとったよ！



5月の中頃、海陽幼稚園の園児が海南文化村にある梅の木から梅の実を収穫しました。葉っぱに隠れた梅の実を楽しそうに探す姿や、先生が棒を使って高いところから落とした梅の実を嬉しそうに拾う園児の姿が見られました。中には「いっぱい取ったよ！」という子もあり、バケツを見せてもらおうと沢山の梅の実が入っていました。今年は梅の実が豊作で、沢山収穫することができたようです。

収穫した実は園に持ち帰り、へたなどを取ってきれいにし、梅ジュースにするために砂糖と一緒に漬け込みました。完成までは2週間程度ですが、おいしい梅ジュースができると良いですね。

## 梅ジュースの作り方

【材 料】 青梅（黄色くなった梅でも可） 500g  
氷砂糖（普通の砂糖や黒砂糖などでも可） 500g

【準備物】 漬けるための瓶（耐熱の物で容量2L程度）  
消毒用アルコール（焼酎や梅酒用のホワイトリカーなど）  
キッチンペーパー  
竹串もしくは爪楊枝

### 【作り方】

1. 瓶をきれいに洗ってから熱湯消毒をし、乾かしておく。
2. 梅を水洗いし、水気をタオルなどで取ってから、梅のへたを取り除く。
3. 梅のへたを取り終わったら、梅と乾かしておいた瓶を、アルコールをしみこませたキッチンペーパーで拭き、消毒をする。
4. 消毒が終わったら、瓶に梅と氷砂糖を交互に入れ、詰め終わったら蓋を軽く閉める（発酵することもあるため）。
5. 毎日1回は瓶を振り、梅と砂糖を混ぜる。

10日～2週間程度で完成！



## 海陽町のアルファベットを探そう!!

子どもたちがアルファベットの発音を楽しんで学ぶことを目的に教育委員会のグローバル教育チームによる英語の動画シリーズが始まりました。初回に提供された小学生向けの作品は、動画のキャラクター「アルファベット靴下」たちをALT（外国語指導助手）の先生と町に出て、探すという内容です。子どもたちが学ぶ英語にご興味がある方は以下のQRコードより紹介動画を是非ご覧ください。



動画はこちらから  
ご視聴ください。



アルファベット靴下  
Aさん



## 図書館活動紹介～ブックスタート～

### 📖 ブックスタートとは？ 📖

0歳児健診などの機会に、赤ちゃん用の絵本や保護者向けの冊子などをセットにしてプレゼントする活動です。おはなし会などを同時に開催し、赤ちゃんに絵本と触れてもらい、絵本を通した親子のふれあいを楽しむ場所をつくれます。

ブックスタートは赤ちゃんに本へ興味を持ってもらうためのきっかけになるだけでなく、同年代の保護者が集まる場ともなるので、保護者同士の交流が生まれる機会でもあります。



### 📖 海陽町のブックスタート事業 📖



海陽町では、2015年から町内の図書館と読み聞かせのボランティア団体、役場の福祉人権課が連携して、5月と11月の年2回、0歳児を対象にブックスタートセットの配布とおはなし会をする場を設けて開催しています。

今年のブックスタートは文化村まつり期間の5月4日に海南文化村で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で公共施設を閉めることとなり、開催はできませんでした。そのため、用意したブックスタートセットは図書館へ取りに来てもらうことになりました。11月のブックスタートでは場所を設けて、開催できればと思います。





## 海陽町の高度経済成長期 岡本山のみかん園



### みかん山の開園

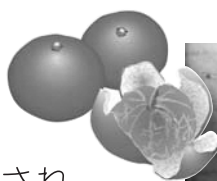
相川口から約1キロメートルさかのぼると、岡本の本覚寺が右手に見えます。その裏側に位置する標高300メートルの山は岡本山で、かつてみかん園が開かれていました。

岡本みかん園は昭和42年、第一次農業構造改善事業として開かれました。農業基本法農政の「選択的拡大」のもとで畜産や青果の生産に力を入れたこと

により、昭和30年代後半から日本でみかんの栽培面積が拡大していたのです。岡本山もその流れにより開園されました。

### みかんの生産から販売

岡本山では10.2ヘクタールが開墾されました。また、農業を近代化するための事業としてみかん園には防除かん水兼用施設が取り入れられました。これにより、水やりと病害虫の予防駆除が効率的に行うことができたのです。岡本山では、南柑20号を中心に栽植を行いました。南柑20号は温州みかんの一種で、冬に収穫のシーズンを迎えます。皮が柔らかくて薄く、子どもでも簡単にむいて食べることができることから老若男女問わず人気があったといえます。



### 廃園とその後

昭和40年後半、みかんの生産過剰やオレンジの輸入の自由化によって、みかんの市場価格が暴落しました。岡本山のみかん園は柑橘再編対策推進事業によって平成元年度に廃園となり、栽植されたみかんの木はすべて伐採されました。みかん園が廃園となって30数年経った現在、みかんの木は一切なくなってしまったものの、みかん園が開かれていた時の名残が随所に残っています。



岡本山には車でも行くことができる登山道があり、頂上まで続いています。廃園後からまもなく平成3年には、岡本山は登山道を活用した恰好のパラグライダー発着地として注目を浴び、一時は大会が実施されるほど賑わいました。今はすっかりパラグライダーも見かけられなくなりましたが、頂上からは変わらず牧歌的な風景が一望でき、心が晴れやかになる場所となっています。

## 企画展

## 「桧瑛司が拾集した写真と唄」の魅力紹介

海陽町立博物館では、5月7日(金)※から企画展「桧瑛司が拾集した写真と唄」が開催されています。ここでは企画展の魅力についてご紹介いたします。

※5月2日(日)からの実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月5日(水)まで臨時休館していました。



## 桧 瑛司氏について

1923年3月7日生まれ。鳴門市出身の舞踊家。徳島県内の民俗文化に興味を持ち、県内各地で民謡の聞き込み調査や祭りの写真記録を行い、その写真の数は2千枚以上にも上ります。桧氏の功績は各地で評価され、文部大臣賞地域文化功労賞、徳島県文化賞等を受賞されています。

1996年1月10日に亡くなりました。

## 企画展の見どころ

徳島県内には色々な民俗文化があります。今回は桧氏によって収められた「集落の人と祭り」の写真、祭りの風景や調査の風景を収めた動画を再生しています。また、桧氏によって徳島の民謡について記された書籍の紹介も行っています。



入口に展示中の  
阿波遊行(あわゆぎょう)の布看板



桧氏によって手掛けられた書籍などの数々



## 皆も知っているかも？

海陽町にも豊かな民俗があります。轟祭り、大里八幡のだんじり、穴喰のうちわ踊り等の記録が展示されています。また、桧氏は海南町時代に「ふるさと芸能組曲」として、「海組」「山組」「川組」を手掛けられた時の記録が展示されています。これらは平成5年の東四国国体の開会式で披露するにあたり作曲されたもので、東四国国体終了後も運動会等で踊られました。



ふるさと芸能組曲に係る資料

## 企画展で感じてほしいこと

今回、桧瑛司氏が各地で収めた祭りに参加する多くの人々の写真を数多く展示しています。特に注目してほしいことがあります。それは、祭りに参加する子どもの写真です。かつてはこんなに多くの子どもが祭りの中心となって参加をし、祭りを肌身で体感し、そして次の世代へと繋いでいきました。

近年、少子高齢化や生活様式の変化などで祭りに参加をする人が減少し、次の世代へと繋ぐことが難しくなりつつある地域の行事が各地にあります。さらに残念なことに、コロナ禍の影響で数多くの地域の行事が中止を余儀なくされてしまいました。海陽町も例外ではありません。

そんな今だからこそ、この企画展が残されている地域の行事にもう一度目を向けていただき、多様で豊かな阿波の民俗に興味関心をもっていただけるきっかけになれば大変うれしいです。



徳島県内の祭りに参加する子どもの写真



収集資料とともに語られる桧氏の想い(動画)

# 穴喰俳句

四月例会より

包帯と定規を買ひに花の昼

間戸谷恵子

塾生と別れのハグや春の風

朝賀ます美

ままごとの揃いの茶碗梅の花

山本球子

主人公は孫よ卒業ものがたり

元木朱子

うららかや円筒型のパン焼いて

寺崎照代

芽柳や石組み堅き眼鏡橋

川野佳代

シャボン玉理科教室を飛び出して

外山千佳

花の種蒔くや母似の十指もて

高戸真理子

二の腕のやはらきこと鳥雲に

新井久実

葱坊主一直線にならびをり

長岡達江

三月の砂場に砂を足してをり

新井駿也

娘と久し四方山話花弁当

樽井みつ子

エイプリルフル大きな旗立てて

木下野生

# 海南俳句

五月例会より

消灯の病室におり遠蛙

岳山祐弘

空よりも山の眩しき夏はじめ

谷口洋根子

椎の花山の命の溢れ出る

山本達平

飛び出して土の色もつ蛙かな

田中たち子

春寒や人骨模型立ち通し

鍛治崎郁夫

大仏の厚き手のひら鳥曇

北川花

エンジンの音ばかりなる田植かな

新居利之

向い風海へ出る道柿若葉

木村みちよ

里山の風のリズムに新芽揺れ

平道はつ子

花筏いち度は堰にとどまれり

森口豊子

へん路笠指でつき上げ見る桜

吉田保則

囀りの八方に散る神の社

橋本幸子



## 海部ひまわり俳句

泰山木開花見届け老師逝く

津田 一

去りゆきし時間も人も朧なる

西本 公明

荏安のレースまえば月冴えて

榊原 礼子

無愛想におがたまの白満開に

南 歌子

トキの雛見守る人や明け易し

元木 美枝子

長曾我部子孫繁栄八十八夜

佐藤 美代子

沈丁花香る町角一年生

穴戸 道子

父の日や面影さえも知らぬ我

濱川 雅男

歩いても歩いても海土佐遍路

川野 照美

ゆつくりと宇宙の駅の流れたる

村田 恵巳

妙見山オヤジが二人花見かな

穴戸 保夫

Two wheels keep turning,  
Hawks cast their gaze from above Inwood Hill again  
ペダル踏む視線は遙かインウッド・ヒル  
関山 無門

## 海陽短歌会

ぎしぎしの実ほままごとの赤まんま山盛りにしてさあ召しあがれ

桑村 未貴子

降りつづく無情の雨に大輪の深紅のさつきボタリボタボタ

大久保 スエ子

ペダルペールぱかつとふたの開く不思議二歳が試すダイキの売場

土谷 公代

幼きころ雲雀あがりし麦畑林となりて鶯の啼く

蛭子 美恵子

何気ない日日のくらしのありがたし風に委ねる雲のように生く

栢岡 節子

たつぷりと豌豆を入れ飯をたき五月の色と香をかみしめる

細野 綾子

新緑の木々に埋もれし隣屋に猿がきたのか犬が鳴くなり

小笹 仁子

## 網代川柳四月句会より

肩組んで金婚式を迎えられ

太田 一洋

となり組昔よかった今空き家

井上 可楽

集まって来た友情に助けられ

黒岩 一平

子が呼んでくれる所に土がない

風呂谷 幸子

面倒な話ボケたと軽く逃げ

石垣 小道

# 参加型コンサート

リモート

## きいて、たたいて 打！打！打！

世界中のいろいろなタンバリンと打楽器による、  
面白くて、楽しい、リズムパラダイス！  
タンバリン、手拍子やボディパーカッション、  
なんでも OK！  
聞いて、叩いて、  
タンバリン博士と一緒にリズムであそぼう！

### ◆出演者：

♪ 田島隆（タンバリン博士）

♪ 池田安友子（パーカッション）

### ◆日 時：

7月10日（土）午後3時～

### ◆会 場：

zoom（ズーム）によるリモート形式

### ◆準備物：タンバリンなど

※町外の方でもご参加いただけます。



○申込内容：下記の内容をお電話でお伝えいただくか、記入の上、FAXしてください。

## 7/10 参加型☆コンサート「きいて、たたいて 打！打！打！」

参加者お名前：

電 話：

ご住所：

メー ル：

連絡先：海陽町教育委員会 TEL：73-3100・1246 FAX：73-3833

※お申込み後、イベント詳細についてのご案内を送付いたします。